



JAPAN HERITAGE

日本遺産

石工の郷 八代 周遊マップ



石工の郷 八代

八代を創造した
石工たちの軌跡



くまモンポート八代

2020年3月に国際クルーズ船の受入れ拠点として誕生。ターミナルの周りには、船の乗客や観光客のおもてなしの場、また、地域住民の憩いの場として、日本庭園や多目的芝生広場など、くまモンをテーマとした特色ある公園が併設されています。

八代市新港町1-25



龍峯山自然公園展望所

八代平野や八代海が一望できるビュースポットです。5合目、8合目、山頂には広場が整備されており、特に5合目まではマイカーで上がることができ、駐車場やトイレもあります。

八代市川田町東



遙拝八の字広場

キャンプやバーベキューなどを楽しめるアウトドアスポット。芝生広場と砂利広場では火気の使用が可能で、特に砂利広場では直火も可能です。独占的に使用する場合は予約不要で、川遊びやカヌーなど、アウトドアレジャーにも幅広く利用できる広場です。

八代市渡町1267

せんだん轟の滝

日本の滝百選の一つ。滝のそばにせんだんの木があったことから、名付けられました。展望所そばのつり橋を渡れば、直径約8mの滝壺の目の前まで行くことができます。

八代市泉町柿油



Product Shop 物産館

八代よかご物産館

八代全域の地元の生産品を販売する直売コーナーや、地元の新鮮な食材を使った料理が食べられるレストランがあります。

八代市上日置町4459-1



ONSEN 温泉

日奈久温泉 ばんべい湯

約350年前の江戸時代に、肥後細川藩の藩営温泉「御前湯」とされ、明治から昭和にかけては「日奈久温泉本湯」、その後昭和42年から「温泉センター」として市民に親しまれています。1Fが公衆浴場、2階は大浴場、3階は家族風呂となっています。

八代市日奈久中町316



さかもと温泉センター クレオン

とろとろとした肌触りが特徴のアルカリ性単純泉。自然を楽しめる露天風呂やゆったりくつろげる休憩スペース、食堂もあります。

八代市坂本町川岳1091

Culture & History 文化&歴史

八代市立博物館 未来の森ミュージアム

市街中心部八代城跡の西側にある八代市立博物館では、この地で育まれた八代独自の歴史や文化、人々の生活を考古・歴史・民俗・美術工芸や、季節毎の特別展覧会など、さまざまな角度から歴史や文化を紹介する展示を行っています。

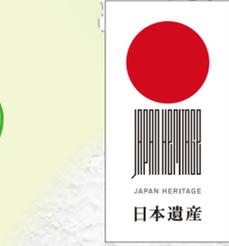
八代市西松江城町12-35



お祭りてんでん館

八代妙見祭当日の様子を迫力ある3面マルチ映像で放映し、祭りの雰囲気を感じることができると展示室のほか、神楽、棒踊り、女相撲など市内各地に伝承する民俗文化財の魅力を紹介する展示もありません。

八代市西松江城町1-47



日本遺産 八代を創造した石工たちの軌跡



古くは「万葉集」にも詠われており、景勝地としても有名です。石灰岩を採掘した際にできた矢穴を見ることができる石灰岩を産出する島です。

八代市植柳町下50



麦島城跡

天正16年(1588)、キリシタン大名小西行長が築城した城で、石垣に八代で産出する石灰岩が用いられている特徴があります。元和5年(1619)に大地震によって倒壊し、廃城となりましたが、その後、石垣の多くは八代城築城の際に転用されました。

八代市古城町2112



八代城跡

元和8年(1622)、熊本藩加藤氏の家臣、加藤正方が築城した城。加工の難しい石灰岩を見事に積み上げた石垣は、当時の石工たちの技の高さを見る人に伝えています。

八代市松江城町7-34

美生地区のしょうが棚田

裏面に詳細を記載



八代城築城の際この島の石灰岩が使用されたことがわかっていて、現在は「石工たちも携わった千拓」に現存している。

八代市郡築一番町



高島新地旧堤防跡

全長約85m、幅約9.4m、最高約4.5mを誇る堤防跡。文化13年(1816)に、八代城代松井徴之(あきゆき)により行われた高島新地開に伴って築造されました。地域で採れる石灰岩を野面積みして築かれている特徴があります。

八代市井揚町



大鞘樋門群

文政2年(1819)の四百町新地千拓事業の際に建造された樋門。現在「穀種」「二番樋」「江中樋」と呼ばれる三つの樋門が残っています。普段は城郭以外には使用されることのない石工が用いられている点などの特徴がみられます。

八代市鏡町両出2975付近



鑑内橋

石工「若永三五郎」が架橋したとの伝承が残るめがね橋。天草砂岩を使用している特徴があり、天草の石工との交流を伺うことができます。

八代市鏡町



岩永三五郎の墓

七百町新地の造成の際、石工たちの総取締役に任命され、多くの石工たちを率いて千拓事業の成功に大きく貢献しました。その功績が高く評価され、職人が功績によって苗字を許されることが極めて稀であった当時、特例で「岩永」の苗字を名乗ることが認められました。

八代市鏡町



文政神社

千拓事業に従事した人々を祀っています。明治43年(1910)、千拓事業の偉業をたたえるために、百町・四百町・七百町新地の接点にあたる場所に、地域住民によって建立されました。

八代市鏡町両出



旧郡築新地甲号樋門附・潮受堤防

明治時代に行われた「郡築新地」の千拓事業の際に設けられた石造10連アーチの樋門。現存する石造樋門として国内最大規模。100年たった現在も、樋門としての役割を果たしています。

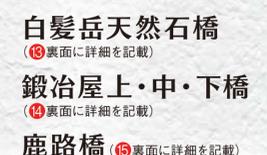
八代市郡築三番町



郡築二番町樋門

昭和13年(1938)に建造された石造3連アーチの樋門。この時期に建造された他地域の樋門の多くがコンクリート造であるのに対し、石造の樋門であるという特徴。八代で長い間石工が活躍していたことを現在に伝えています。

八代市郡築二番町



白髪岳天然石橋

裏面に詳細を記載

鍛冶屋上・中・下橋

裏面に詳細を記載

鹿路橋

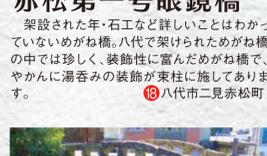
裏面に詳細を記載

笠松橋

裏面に詳細を記載

谷川橋

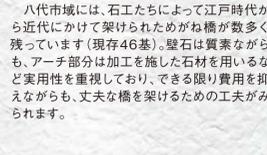
裏面に詳細を記載



赤松第一号眼鏡橋

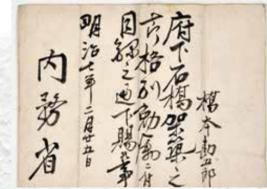
架設された年・石工など詳しいことはわかっていないめがね橋。八代で築かれためがね橋の中で最も珍しく、装飾性に富んだめがね橋で、やがんに潮呑みの装飾が実柱に施されています。

八代市二見赤松町



めがね橋群

裏面に詳細を記載



橋本家文書

めがね橋の設計図や架設の際の見積書が残されています。八代の石工が技術者としての側面と経営者としての側面を持ち、全国に活躍の場を広げることが可能にした高い能力を持っていたことを表す貴重な約130点の文書群です。



い草及びい草製品

千拓事業の成功によってもたらされた平野が、ミネラル、微量要素、天然肥料などを多く含んだ土地で、い草栽培に最適な環境地域だったことから八代で盛んに栽培されています。現在流通している国産い草の約9割が千拓平野を中心とした八代の大地で生産されており、日本の畳文化を支えています。



大鞘節/大鞘名所

江戸時代に行われた千拓に従事した労働者たちが歌った民謡。唄・太鼓・三味線の囃子に合わせ、鉦・ブリ(天秤棒の両側に鉦を掛けて土を運ぶ道具)を持って踊ります。現在、八代新地大鞘節・芝口大鞘節・碓原おざや名所が残されています。



女相撲

1855年に完成した二の丸新地・八代新地築造の際、潮止め工事が難航し、周辺の村々から屈強な力士を集め、灘口を踏み固め、無事完成させたことがはじまりと伝えられています。いつから女性主役になったかは不明で、女性以外は土俵に上がることができない全国的に珍しい民俗芸能です。



芝口棒踊り

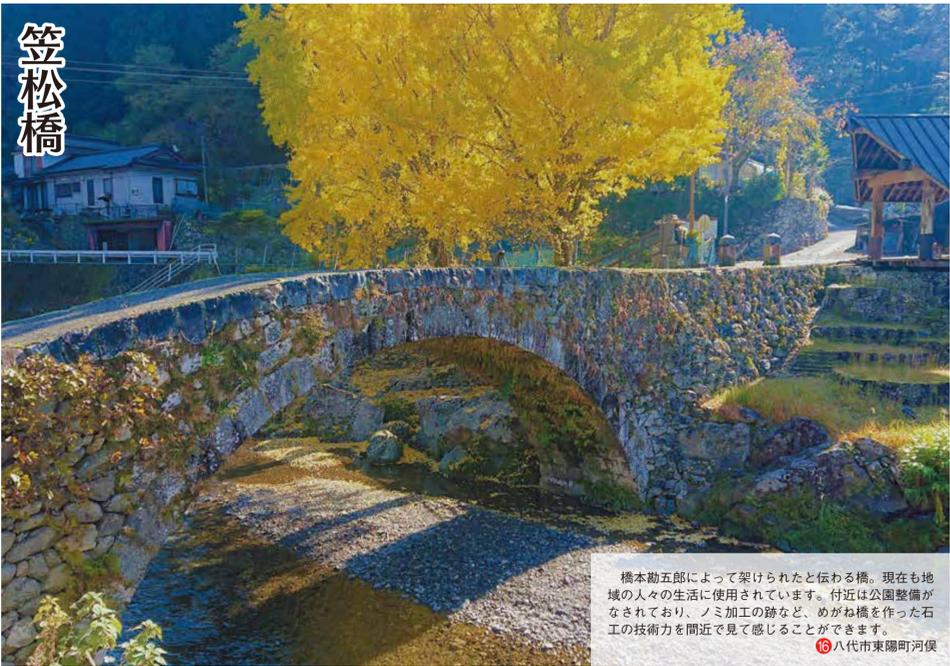
千拓事業によりもたらされた七百町新地に入植した人々によって、収穫祭や娯楽として披露されるようになった踊りです。

ひねり灯籠

裏面に詳細を記載



八代市観光物産案内所(新八代駅内)



笠松橋

橋本勘五郎によって架けられたと伝わる橋。現在も地域の人々の生活に使用されています。付近は公園整備がなされており、ノミ加工の跡など、めがね橋を作った石工の技術力を間近で見ることが出来ます。
⑮八代市東陽町河俣



鹿路橋

橋本勘五郎の父・橋本嘉八によって嘉永元年(1848)頃に架けられたと伝わる橋です。橋長は20mを超え、八代市域に存在するめがね橋の中でも比較的大きな橋です。
⑮八代市東陽町河俣



白髪岳天然石橋

地元には「白髪山の天神様が山を下りて来られる際に、道を塞いでいた大岩を踏み破って出られたためにできた」という伝説が残り、石工たちがこの天然石橋を眺めてめがね橋のアーチ構造のヒントを得たとの言い伝えが残っています。
⑮八代市東陽町北

種山石工のふるさと 東陽町のみどころマップ



美生地区のしょうが棚田

地域住民と石工たちが協力し、棚田を造成したという言い伝えが地域に残っています。「日本の棚田百景」にも選ばれており、地形を利用した、山肌を覆う美しい石積みの棚田を見ることが出来ます。現在は、特産品の生姜が栽培されています。
※棚田の中には立ち入りしないでください。
⑮八代市東陽町河俣美生地区



鍛冶屋上・中・下橋

種山石工の祖との伝承が残る林八が文化年間(1804~1818)頃に架けたと伝わっています。数歩で渡る事ができるほど、小さい橋ですが、美しいアーチが特徴的なめがね橋です。
⑮八代市東陽町北



ひねり灯籠
菅原神社
若宮神社

90度ねじられたように彫刻された石灯籠です。菅原神社の灯籠は嘉永4年(1851)に橋本勘五郎が菅原神社の灯籠を嘉永7年(1854)に石工八が作ったとされています。見た人に驚きを与え、石工の遊び心、技術の高さを今に伝えています。
八代市東陽町南北



石匠館

日本で初めてのめがね橋や石工技術のユニークな資料館として生まれました。館内には各地のめがね橋の紹介、若永三五郎や橋本勘五郎といった石工に関する展示や石工の技術に関する解説などがあります。
⑮八代市東陽町北 98-2



谷川橋

昭和4年(1929)に架けられた、現存するめがね橋の中で最も新しい橋であり、八代で長い間石工たちが活躍し、めがね橋を架設していたことを物語っています。
⑮八代市東陽町河俣



道の駅東陽

かけ流し天然温泉をはじめ、農家直送野菜を使った野菜レストランや物産館を兼ね備えた複合施設です。東陽ならではのしょうがソフトクリームやしょうがにこだわったお菓子などが楽しめます。
⑮八代市東陽町南 1051-1



東陽町の特産品

東陽町の特産品であるしょうが。毎年、10月にはしょうが祭が開催され、多くの来場者で賑わいます。



種山石工とは・・・
八代の種山地域(現八代市東陽町)を中心として活躍をしていた石工の技術集団です。熊本県内はもとより県外にも、多数のめがね橋を架けました。架設した著名なめがね橋には美里町の霊台橋や山都町の通潤橋があります。

八代へのアクセス

高速道路	新幹線	鉄道/JR九州・肥薩おれんじ鉄道	高速バス	飛行機
<ul style="list-style-type: none"> 福岡IC 約20分 長崎IC 約1時間20分 佐賀大和IC 約20分 大分IC 約1時間30分 	<ul style="list-style-type: none"> 新大阪 約1時間30分 広島 約1時間5分 博多 約50分 鹿児島中央 約45分 	<ul style="list-style-type: none"> 別府 約3時間30分 熊本 約30分 新八代 約5分 八代 約1時間15分 八代 約1時間5分 八代 約1時間20分 	<ul style="list-style-type: none"> 新八代駅 約2時間15分 フェニックス号 約2時間20分 バス本林1町 約50分 八代IC 約2時間30分 	<ul style="list-style-type: none"> 東京 約1時間55分 大阪 約1時間5分 伊丹 約1時間30分 名古屋小牧 約1時間30分 名古屋中部 約1時間25分

空港~八代へ5<5<直行便
一ぱーぽんぱいしゅく

阿蘇くまもと空港~新八代駅~八代駅~各ホテル
八代グランドホテル、ホテルウィン
クイーン、アパルトメント熊本八代、ホ
テルムーン八代、セントロイ
ヤル八代、ホテル1-1

石工の郷 八代
周遊マップ

詳しいストーリーは



日本遺産#104



令和4(2022)年度
文化資源活用事業費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

発行元

八代市日本遺産活用協議会(八代市文化振興課内)
八代市松江城町1-25 ☎0965-33-4533

miura-ori®

特許 第3644945号 商標 第4583671~2号 No.2055
井上総合印刷 028-661-4723 ©Koryo Miura1978